

一般社団法人眞山舎 (所在地：東京)

事業名

「リカバリーの学校@くにたち」と共生ネットワークの創設

事業の趣旨・目的

- ・「**キョウドウを生きる暮らし**」を実現するために、しょうがいしゃと市民が地域で共につながる学びの場を共創する。
- ・学びのキーワードは、**対話(言語/非言語)**を通じた「**リカバリー**」と、「キョウドウを生きる」ための共生圏を地域に拡げる「**回遊性/越境性**」。
- ・事業成果や研究成果を共有し、**教育と福祉の関係者のつながり**を生み、地域の**共生ネットワークづくり**を推進。

事業実施体制・連携先

- ・主要な実行団体：眞山舎(事務局・全体統括・事業評価)、bumPo-伴歩-(言語対話型プログラム担当)、国立市公民館(非言語対話型プログラム担当)
- ・連携協議会構成：令和5年度リカバリーの学校@くにたち学習者(しょうがい当事者)、一橋大学社会学部教授、一橋大学大学院ソーシャル・データサイエンス研究科研究補助員、「リカバリーの学校 調布校」主宰者、国立市しょうがいしゃ支援課職員、国立市公民館社会教育主事、大学院生ボランティア、国立市社会福祉協議会CSW、ソーシャルワーカー、一橋大学研究補助員・DIY工房運営

事業内容

言語対話型プログラム・非言語対話型プログラム・当事者参画型プログラムによる「リカバリー」の学び

A) 言語対話型プログラム

- ①言語対話型:リカバリーについて学ぶ「リカバリーの学校」(毎月開催7回)
- ②講座「対話のレッスンーコミュニケーション力を引き出すー」(3~4回)

B) 非言語対話型プログラム

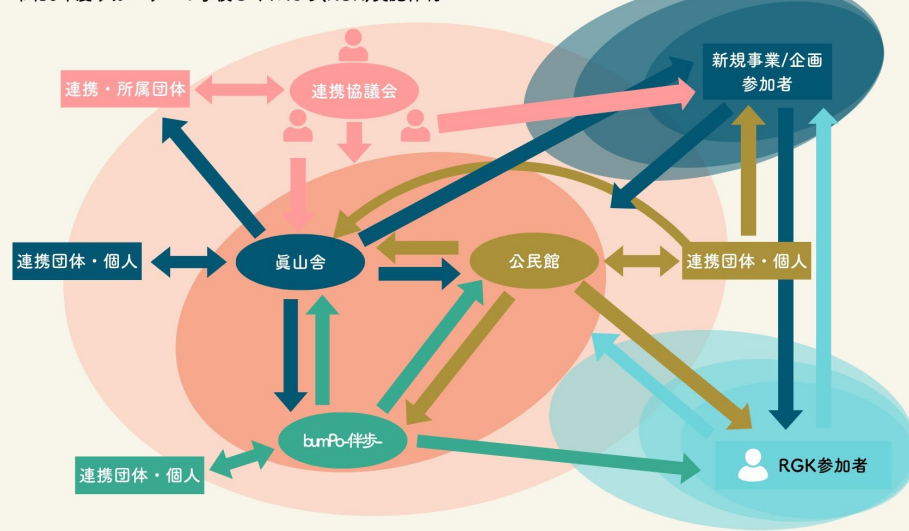
- ③非言語対話型:アート講座「伐採された桜の木を利用した木工クラフト」(3回)
- ④非言語対話型:スポーツ講座「属性や背景を超えるダイバーシティサッカー」(3回)

C) 当事者参画型プログラム(スピニアウト企画)

- ⑤共につくる学びと交流プログラム(3回程度)

※すべてのプログラムで障害の有無を超えた学びあいを目指す

令和6年度リカバリーの学校@くにたち(RGK)実施体制



事業終了後の目指す方向性

- ・講座プログラム及びカリキュラムの終わりなき改善
- ・中長期アウトカム実現に必要な取り組みの開発
- ・持続的な事業運営に向けた効果的な情報発信



地域における「キョウドウを生きる暮らし」の実現

その他

一般社団法人眞山舎ホームページ



<https://www.sanayamaya.org/>

リカバリーの学校@くにたち特設サイト



<https://www.recovery-gakko-kunitachi.com/>